

【別紙2】

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 静岡県 】 学校名 静岡市立梅ヶ島小中学校

1 実践テーマ	【 Ⅲ V 】
2 実施対象者	全学年23名（小学部児童16名・中学部生徒7名） 保護者 4名 教職員15名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	パラアスリートとの交流を通して、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、広い心をもって他者から謙虚に学び、自らを高める。
5 取組内容	【事前指導】 朝読書でのオリパラに関する読書 道徳において、国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」の活用 【当日の指導】 派遣選手の講演 児童生徒との交流    

	 【事後指導】感想の記入 派遣選手、パラバドミントン競技の応援
6 主な成果	・小学生の児童にとっては、車いすで生活している方に対して、接しやすくなった。 ・初めてパラバドミントンの競技に挑戦し、上手にできなかったことを通して、その難しさを実感したり、選手に対して「すごい」という尊敬とあこがれの気持ちをもったりすることができた。 ・自分の将来の夢に対して、改めて強い思いを抱くきっかけとなった。 ・中学部の生徒にとっては、パラバドミントン選手の競技力を実際に体験することによって、どんな境遇や環境でも、本気で取り組むことの尊さ、価値に気付くことができた。 ・日常生活において、障がいをもつ方々に対しての見方を少しでも変えていこうとする気持ちをもつことができた。 ・パラリンピックの競技にも注目し、応援したいという気持ちをもつことができた。
7実践において工夫した点 事業の特色	・小学生と中学生が一緒に講演を聞き、体験をすることによって、車いすへの乗り方を指導された中学生が、小学生が体験する際に教えてあげたり手伝ったりしている様子が見られた。 ・バドミントン部の生徒とパラアスリートが本気でゲームを行うことにより、パラバドミントンの競技力の高さを実感することができた。
8主な課題等	・当初の実施希望日を10月～11月としていたが、パラアスリートの大会期間中等であったため実現せず、実施が1月下旬となってしまった。たいへん寒い体育館の中、インフルエンザの流行もあり、児童生徒、パラアスリートへの健康に気を遣うこととなった。 ・講演のテーマや内容についての事前の連絡調整をして、綿密なタイムスケジュールを組んでおきたかった。
9来年度以降 の実施予定	・SNS等を用いた応援メッセージの送付による交流の継続